

# ながめま



ディスバッドマム

— 27区 石井 亨さん —

## 長沼町園芸組合連合会 長沼町へ野菜寄贈

長沼町園芸組合連合会は、8月9日、日頃の支援や活動助成へのお礼と収穫の報告を兼ねて、長沼町役場に訪問し、齋藤町長へ野菜を贈呈しました。

新鮮な野菜に大変喜んでいただき、贈呈されたアスパラ、いちご、キュウリ、トマト、長ネギ、ブロッコリーは町内の保育園で使用されました。



左から塩浜副町長、齋藤町長、荒井会長、坪井副会長、細川副会長

## ながぬま麦・大豆生産流通協議会 秋小麦・大豆現地研修会開催

8月19日、秋小麦・大豆現地研修会が本所事務所2階大会議室、北長沼支所前、舞鶴事業所前にて開催され、64名の生産者が参加されました。



普及センターの菅原専門主任と農協の村井営農コンサルタントより、秋小麦のなまぐさ黒穂病対策・雑草対策等、大豆のカビ莢・腐敗粒対策等について説明がありました。

生産者からも多くの意見・質問が出され有意義な研修会となりました。



## 販売部 令和4年産 小麦受入開始

7月22日、令和4年産小麦受入を開始しました。

昨年より4日早いスタートとなり秋小麦、春小麦合わせて約14,370tの受入を行いました。自主検査での平均歩留は秋小麦「きたほなみ」で80%、春小麦「春よ恋」で77%となり本年も1等Aランク調整に努めます。

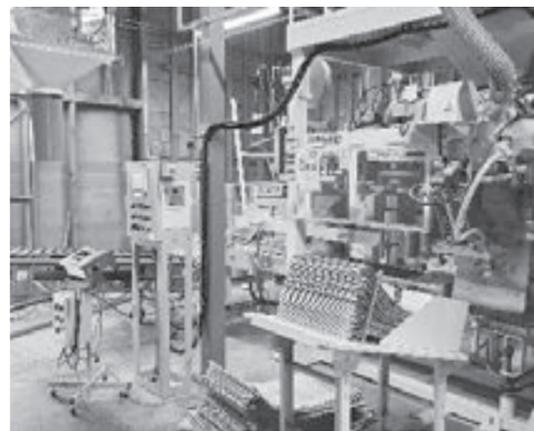
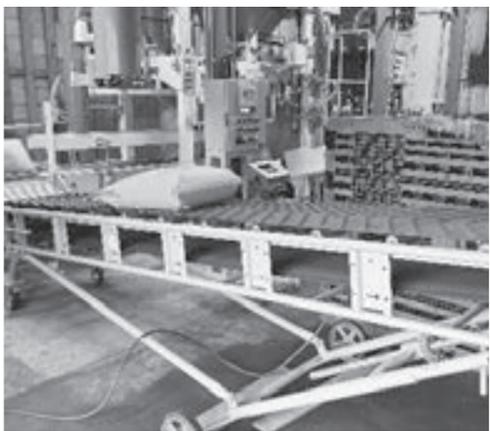


## 営農部 小麦消毒施設稼働

農業倉庫北6号に設置しております小麦消毒施設は、8月16日から19日にかけて令和5年産用小麦種子供給に向け消毒作業を実施しました。

長沼産きたほなみ採種144t、原種3tをベフランシードフロアブルにて種子消毒を行い、8月下旬より順次配送を行っています。

今後も所得向上に向けた良品質小



麦生産のため、優良種子の安定供給に取組んでまいりますので、皆様の一層のご理解、ご協力をお願いいたします。

## 販売部 花き出荷最盛期

8月に入り、花きの出荷が最盛期を迎えました。27区の石井亨さんのハウスでは「ロサーノシャルロット」や「デイスバッドマム」等が出荷されました。

丁寧に栽培管理された長沼町の花は道内を始め全国へ出荷されています。



ロサーノシャルロット  
(27区 石井 亨さんハウス)



花き共選場

## 管理部

### 役員研修会を開催

「コンプライアンス経営・農業情勢を学ぶ」

8月22日、農協役員、職員30名が出席し、役員研修会が開催されました。

コンプライアンスの研修では、JA北海道中央会岩見沢支所の西島支所長を講師に迎え、法令やルールの背後にある社会的なニーズを理解し、倫理や社会的規範に対し誠実な対応をしていくことへの重要性や農協役員の役割や遵守すべき事項を学びました。

農業情勢では、JA北海道中央会岩見沢支所の桑原次長から、昨今の農業施策や情勢についてのお話をさせていただきました。

研修会ではコンプライアンスや農業情勢について役員から質問や意見も出され有意義な研修会となりました。



### 長沼町地域農業再生協議会 経営所得安定対策最終 確認申請手続き

8月23日から26日までの4日間、経営所得安定対策最終確認申請手続きを大会議室で行いました。

会場では、新型コロナウイルス感染症防止対策として、マスクの用意と着用、換気、アルコール消毒の実施、アクリルパーテーションの設置など、感染防止対策を徹底しました。



## 販売部 JAながめま青果物 JAL共催販促イベント開催

8月6日から7日の2日間に亘り関西地区を中心に157店舗を展開する量販店チェーン平和堂においてJALの協力をいただき販売促進イベントを開催いたしました。

兵庫県尼崎市の大型商業施設「平和堂アル・プラザつかしん」にて、今回はレタス、朝どりコーン、ブロッコリー、トマト、フルーツトマトの5品目を朝一番

のJAL便にて空輸し、その日の午後1時にイベント開催店舗に到着。即座に陳列しJAL社員が販売ブースに立ち長沼産野菜を販売しました。

航空会社との連携によるこのような販促イベントは関西地区の量販店としては初めての取り組みであったこともあり、消費者の反応が非常に良く平和堂本社に消費者から感謝の電話が入るなど想定以上の反響があったと大好評をいただきました。



## 販売部 株式会社JALスカイ札幌スタッフ によるいちご収穫作業

この度、JALスタッフによるいちごの収穫体験をJAながめまいちご部会南部長宅で実行しました。

これは「JALふるさとプロジェクト」の一環として北海道の地域活性化に積極的に取り組む株式会社JALスカイ札幌と創業100年以上を誇る老舗和菓子店月寒あんぱん本舗、株式会社ほんまが共同で開発したお菓子『あん丸の里いちご丸』の原料となる予定です。

月寒あんぱん本舗本店他、JAながめまAコープでも絶賛販売中です。



9~10月の

# 秋小麦栽培

ポイント



## 1. ドリル播き栽培における「は種期」と「は種量」

適期より早い種は、過繁茂な生育となり倒伏しやすく、「きたほなみ」では縮萎縮病が発生しやすい地域では発生を助長します。また、適期より遅い種は、雪腐病やなまぐさ黒穂病発生および穂数不足となり、収量・品質が不安定となります。越冬前目標茎数確保に向けて、表1・2を参考に、は種適期およびは種量を参考として目標茎数確保を目指しましょう。

表1 越冬前葉数から見た越冬前目標茎数とは種適期

品 種	越冬前葉数	越冬前目標茎数	は種適期
きたほなみ	5.5～6.5葉	1000本/m <sup>2</sup>	9/18～24
ゆめちから	6葉以上	1300～1500本/m <sup>2</sup>	～9/20

表2 は種期とは種量（ドリル播き）の目安

品 種	9月15～20日	9月21～25日	9月26～30日
きたほなみ	5～6kg	6～7kg	7～8kg
ゆめちから	8～9kg	9～11kg	—

## 2. 施肥（基肥）

越冬前の生育量確保のため基肥の施肥窒素は3～4kg/10aを施用しましょう。

## 3. コムギなまぐさ黒穂病対策

### (1) 主な対策事項

- ・小麦の連作はしない（3年以上の輪作）
- ・種子は毎年更新して、かつ種子消毒を徹底する
- ・透排水対策の実施
- ・遅まきをしない（目安9月25日頃まで）  
は種時期が遅いほど発病穂率が高まる（右図）
- ・は種深度は3～4cmに
- ・小麦の野良生を発生させない
- ・トラクター、作業機械の洗浄をこまめに行う

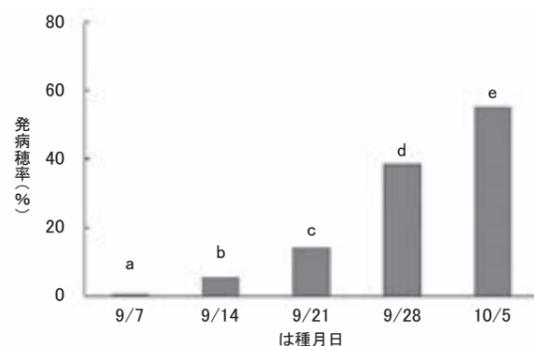


図 は種時期の異なる小麦における発病穂率の比較 (2018年 上川農試)

### (2) 薬剤散布の実施

防除時期 根雪前（10月下旬～11月中旬）

一般防除機の散布

・「フロンサイドSC」1,000倍液…100～150ℓ/10a

無人ヘリ等の散布

・「フロンサイドSKY」8倍液…0.8ℓ/10a（または16倍液…1.6ℓ/10a）

雪腐病同時防除も可能です

注）「フロンサイドSKY」使用にあたっては、「安全使用同意書」の提出が必要となります。

## 4. 縮萎縮病対策

縮萎縮病発生しやすいほ場の「きたほなみ」ドリルは種は、9月21日～30日

・「フロンサイドSC」…600ml（100ℓ/10a）散布（は種前土壌混和）

9月の

# 水稲栽培

ポイント



## 1. 適期収穫

今年の水稲は平年並に成熟期（平年 成苗ななつぼし 9/12）をむかえると思われま。高品質米生産むけて、ほ場および品種別に玄米判定（下見検査）し収穫適期を判断しましょう。玄米判定を参考に、刈り遅れにならないよう計画的に収穫しましょう。

### (1) 出穂期から日数や日平均積算温度による成熟期予測

平年では、出穂期から40～50日、籾数が3万～3.2万粒/m<sup>2</sup>で積算温度950℃（そらゆき1100℃）で成熟期に達します。品種や籾数によって異なりますが、成熟期から約1週間後が収穫適期と予測できます。

参考：今年（令和4年）の出穂期（成苗ななつぼし 7/30）を起点とした45日後は9月13日になります。

### (2) 籾の熟色による成熟期判定

成熟期が近づいたら、好天日に1株中の黄化籾の割合を目視で確認します。成熟期は全籾の90%が完熟籾となった時です（図1）。

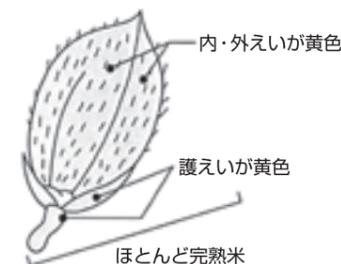


図1 完熟籾のイメージ

### (3) 玄米による収穫適期判定

品種、ほ場単位で最も生育が進んだ水田内で、平均的に生育している箇所から3～5株採取します。生育のバラツキが多く、穂揃いが悪いほ場では多めにサンプル採取しましょう（図2）。

玄米の整粒歩合が70%または80%で収穫適期ですが、青未熟粒の割合が多い場合は、判断が難しくなります。登熟は1日当たり2～3%進みますので、3～4日後に再度サンプル採取し判定を行ってください。

なお、9月上旬よりJAの各検査場（中央、北長沼、舞鶴）で適期刈り取り指導にて適期判定および指導を受けましょう。

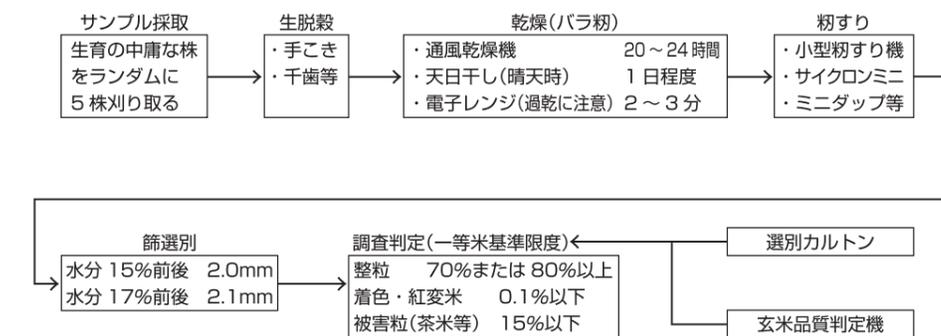


図2 玄米による収穫適期の判定方法

## 2. ほ場管理と来春に向けた土壌診断

- (1) 表面排水へ溝切り、透排水性改善へサブソイラ施工で縦浸透改善を。
- (2) 令和3年の土壌診断結果より、本田ではケイ酸が少ないほ場やリン酸過剰のほ場が多いです。また、育苗床もリン酸が過剰傾向なので、土壌診断を実施し現状把握しましょう。多項目の土壌分析診断については、JA助成（1戸10点まで無料）を活用しましょう（土壌提出先：JA資材センター）。

9~10月の

# 大豆栽培

ポイント



## 1. カビ莢・腐敗粒対策

生育の早い大豆では、カビ莢・腐敗粒対策として9月上中旬に大豆登録殺菌剤の散布をしましょう。  
 主な農薬 シルバキュアフロアブル、ミリオネアフロアブル、アミスター20フロアブル

## 2. 適期収穫

外観品質の劣化、茎・子実水分の低下推移から「ユキホマレ」のコンバイン収穫適期の目安は、道央で9月下旬～10月中旬（成熟期後2週間以内）と整理されています。

また、道央で「ユキホマレ」が茎水分40%前後、子実水分20%以下となる時期も9月下旬～10月中旬、「トヨムスメ」はそれよりも4～13日遅くなります。（平成14年北海道普及推進事項より）

収穫損失と汚粒の少ないコンバイン収穫のポイントは、大豆生育（成熟期）を十分把握してほ場の環境整備により、品質良い大豆生産へ以下の事項を確認し実行しましょう。

## 3. 必ず試し刈りを行う！

- ・10m程度実施し、汚粒やつぶれ、破碎粒などを確認する
- ・発生が見られたら収穫作業は一度中止し、対策を講じてから収穫を再開

◎ 試し刈りで汚粒が出たら

### ● チェックポイント

- ・雑草、わい化株がほ場に無いか？
- ・刈り取り高さは適正化？
- ・子実水分や茎水分は？
- ・コンバインの調整は？



### ● 対策

- ・抜き取りの徹底を！
- ・12～15cmを基本に土砂を入れないように！
- ・子実水分や茎水分に合わせて作業計画
- ・再度コンバインの調整を！

## 4. コンバイン収穫開始の目安

茎の状況	子実水分	ぬめり	汚粒の危険性	対応
緑が多い	低い	—	少～中	子実水分が低下するのを待つ
	高い	—	中～高	降雪まで時間がある場合は茎の成熟を待つ
褐色が多い	低い	—	少	今すぐ収穫を開始
	高い	—	中～	子実水分が低下するまで待つ
黒が多い	低い	あり	中～	ぬめりがなくなるのを待つ
		なし	少	今すぐ収穫を開始
	高い	あり	高	子実水分が低下し、ぬめりがなくなるのを待つ
		なし	中～	子実水分が低下するのを待つ

（注）子実水分：「高い」は18%以上 「低い」は18%未満とする

## 5. 雑草対策

ほ場の優先雑草を考慮し、土壌処理剤および茎葉処理剤（10月中旬）を組合せましょう。  
 スズメノカタビラ等イネ科雑草が発生しやすいほ場は、土壌処理剤として「キタシーブフロアブル」または「ムギレンジャー乳剤」などのスズメノカタビラに効果が高い剤を使用しましょう。  
 さらに、トレファノサイド乳剤処理（10月中旬）の追加処理はより効果が高まります。  
 オニノゲシ、ナタネタビラコ等の広葉雑草が発生しやすいほ場は、小麦2～4葉にエコパートフロアブル処理を必ず実施、翌年春にエコパートフロアブルやハーモニー75DF水和剤の体系処理を目指しましょう。

### ＝ 秋まき小麦の土壌処理（ドリル播き栽培） 農薬使用例 ＝

除草剤名	シロザ類	タデ類	ハコベ	ナズナ	スカシタゴボウ	1年生イネ科	スズメノカタビラ	使用方法及び使用時期等	10a 当り 使用量	使用回数
キタシーブフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	は種後～小麦3葉期（雑草発生前～発生始期） スズメノカタビラの除草効果が高い	80～100 ml	1
ムギレンジャー乳剤	○	○	○	○	○	○	○	秋まき栽培のは種後出芽前（雑草発生前） 砂土では薬害の恐れがあるので使用しない 砂壤土での使用は黄化、生育抑制を生じる場合があるので300 ml / 10a で使用 少量散布（25～50 l / 10a）の場合は専用ノズルを使用する	300～600 ml 水量 50～100 l 少量 25～50 l	1
ガルシアフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	は種後出芽前（雑草発生前）  出芽直前～小麦3葉期（雑草発生前～発生始期）  小麦4～6葉期（越冬前 スズメノカタビラ4葉期まで）	150～250 ml  100～200 ml  200～250 ml	1

### ＝ 秋まき小麦 秋期と春期の茎葉散布処理 農薬使用例 ＝

除草剤名	シロザ類	タデ類	ハコベ	ナズナ	スカシタゴボウ	1年生イネ科	スズメノカタビラ	使用方法及び使用時期等	10a 当り 使用量	使用回数
トレファノサイド乳剤						○	○	は種後～3葉期（イネ科雑草1葉期まで） 生育期（雑草発生前）但し収穫45日前まで	200～300 ml 200～300 ml	2
エコパートフロアブル	○	○	○	○	○			小麦2～4葉期 春期（雑草発生始期）止葉抽出前まで（収穫45日前）	50～75 ml 50～75 ml	2

※ 薬剤使用量などの詳細は、栽培基準を参照



## 農作業事故に注意しましょう！

農作物の収穫作業が進んでいますが、この時期は農作業事故も多発しています。昨年度は道内で9名がトラクターや作業機、動力運搬機の下敷きなどによって亡くなっています。

農作業は、一瞬の気の緩みが重大な事故を招く危険性があります。また、9月に入りコンバインでの収穫作業も多くなります。周囲の安全確認を行い、安全に作業を進めましょう。



### 【コンバイン事故の特徴】

- ① 走行中（ほ場・道）の転落、横転  
⇒ 死角に注意し、重心の変化などに考慮した安全な作業を行いましょう。
- ② 整備中の事故  
⇒ 整備を行う際は、エンジンを止めましよう。
- ③ 巻き込まれ事故  
⇒ エンジンを停止し、手袋や作業着の巻き込まれに注意ましよう。

### 退職職員

（令和4年8月31日付）

営農部営農企画課企画振興係  
渋谷 優介

※ 収穫損失と汚粒の少ないコンバイン収穫のポイント（中央・上川農試 2002）

- ・ 茎にぬめりが無く、茎水分 55%以下で最適は 40%以下
- ・ 子実水分 14～20%で最適は 15～16%
- ・ 刈り高さ 12cm 以上
- ・ 収穫時間帯は露のない 10～16 時頃まで
- ・ 作業速度は 0.8m/S を目安に条件に応じて速度を調整
- ・ 大豆主茎長 55～70cm で倒伏がない
- ・ ほ場に雑草（イヌホウズキ等）やわい化病罹病個体がない
- ・ コンバインを大豆使用に設定し、オーガ排出を避ける
- ・ 大豆収穫前に麦や米を収穫した場合、清掃は念入りに

### 5. 裂皮・しわ粒を発生させない乾燥へのポイント

大豆の出荷時子実水分は 15%まで乾燥します。大豆の子実は、稲・麦の子実より粒が大きいことから、乾燥途中に子実内の水分むらが発生しやすいです。送風温度あるいは湿度によっては、乾燥に起因する被害粒（裂皮粒、しわ粒）が多発する場合があります。また、コンバイン収穫の場合、穀粒水分が 20%以上になることもあり、特に注意が必要です（下図を参照）。

- ・ 乾燥を始める初期水分は、20%以下にする
- ・ 静置式乾燥機は、乾燥むらが起きやすいため、急激な乾燥は避ける
- ・ 循環式乾燥機は、損傷粒が発生しやすいため、誘導排出型バケットコンベアの利用や籾殻等を循環時の緩衝材として利用することが望ましい
- ・ 乾燥時の穀温は、外気温より 15℃以上上がらないようにする
- ・ 高水分の子実は、収穫後直ちに熱風を当てないで、蒸れないようにゆっくり常温で通風し、20℃以下になってから温度をかける

表 乾燥機別乾燥温度と速度の目安

	静置式乾燥機	循環式乾燥機
送風温度	30℃以下	35℃以下
乾燥速度 (1時間当り減水率)	0.30%以下	0.35%以下

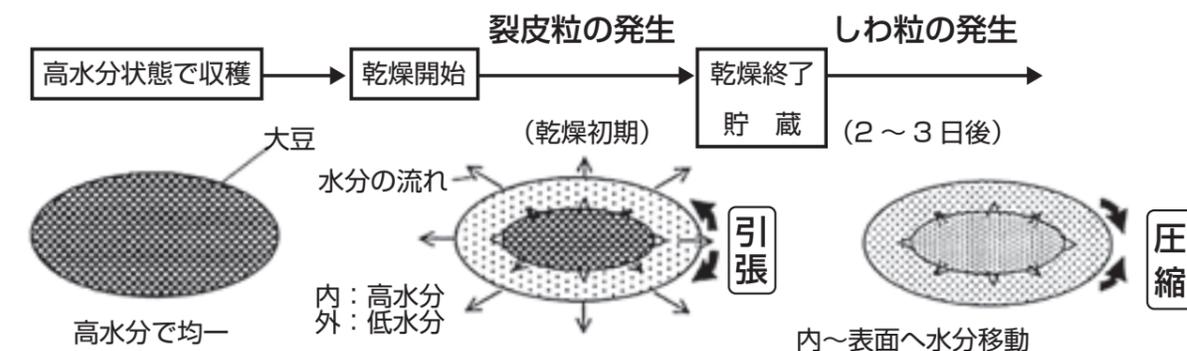


図 大豆乾燥における裂皮粒の発生としわ粒の発生のメカニズム  
注) 社団法人全国農業改良普及協会 大豆乾燥調整マニュアルより引用

あらためて気づいた  
食と農、家族のたいせつさ

「家活」でおうち時間を  
楽しもう!

家の光

月号	定価(税込)
普通月号	629円
付録月号(1・4・5・7・9月号)	922円
付録月号(家計簿付き12月号)	1,027円

お申し込みは 営農企画課 ☎88-2232

## 理事会報告 - 第9回 -

《令和4年8月22日開催》

### [議案]

- 第1号 理事に対するクミカン貸越極度額の変更について
- 第2号 令和4年産米の取扱について
- 第3号 有償運送(ホクレントラック事業所)の許可申請について
- 第4号 組合員の出資減口について
- 第5号 信用供与等の限度額の決定について
- 第6号 担い手支援事業について
- 第7号 事業推進員会議の開催について
- 第8号 令和5年度 新規採用職員について

### [報告事項]

1. 会議行事報告について
2. 組合員の加入及び脱退の状況について
3. 利益相反取引の実行報告について
4. 農作物生育状況について
5. 令和4年産 小麦受入れ状況について
6. 第2回 粳バラ施設運営協議会について
7. 野菜・花き共選等の状況について
8. 令和5年用 営農資材の取りまとめについて
9. 余裕金の運用状況について(第2四半期)
10. 各連合会等の配当について
11. 内部監査報告(中央会・内部監査室～現金等実査)について
12. その他

以上、すべての議案について審議し原案通り承認されました。

### 今月の組合員数 (前月比)

組合員 1,575名(-1)  
 正組合員 814名(±0)  
 准組合員 761名(-1)  
 正組合員戸数 640戸(±0)

## 農協の動き 7/20~8/22

### 7月

20日	長沼町観光協会役員会	於 役 場
21~23日	青果道外市場販売推進	於 九州・関西・関東
22日	小麦受入開始	於 麦バラ施設
27日	夏季町長旗全町ゲートボール大会	於 町 内
27日	仮決算現金実査(常勤監事・内部監査室・中央会)	於 舞鶴事業所
27~29日	長沼町中央要請	於 東 京 都
27~30日	内部監査(中央会・内部監査室)	於 管 理 部
28日	仮決算現金実査(常勤監事・内部監査室・中央会)	於 北長沼支所
29日	仮決算棚卸・現金実査(常勤監事・内部監査室)	於 農業倉庫・精米所
29日	7/31付退職辞令交付	於 農 協
30日	仮決算現金実査(常勤監事・内部監査室)	於 管理部・金融部

### 8月

1日	仮決算棚卸実査	於 関係部門・子会社
4日	種馬鈴しょ第4期防疫検査	於 農協・ほ場
9日	園芸連 長沼町(保育園)へ野菜贈呈	於 長沼町役場
9日	空知管内農協組合長会議	於 空知農業会館
17~19日	第2四半期自治監査	於 農協・子会社
18日	担い手支援推進委員会	於 農 協
19日	ながめま麦・大豆生産流通協議会現地研修会	於 本所・北支所・舞鶴事業所
20日	長沼町戦没者追悼式	於 り ふ れ
22日	理事会	於 農 協
22日	役員研修会	於 農 協

食と農  
 ひらく未来へ  
 確かな目

食農のページがもっと楽しく  
 食農教育の知識がいっぱいつまっています。



購読のお申し込みはJAへ



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞